

# すべての子どもが日本の子どもとして 大切に守られるために

平成28年度 日本財団助成事業 報告書



平成28年度 日本財団助成事業

すべての子どもが日本の子どもとして  
大切に守られるために

日本の子どもの未来を考える研究会



## ごあいさつ

子どもは、社会の宝物 みんな社会の宝物。

私たちの社会福祉法人麦の子会の研修で、「むかしM a t t oの町があった」という映画を見ました。M a t t oというのは、狂人という意味だそうです。これは精神疾患のある方たちが、病院の中で、治療ではなく管理され自由がなく、抑圧を受けた大変な場所でした。

次の日行われた法人研修の「障害者福祉の歴史と未来」という北星学園大学の永井順子先生講義の中で、先生は「病院がM a t t oとして扱い、M a t t oを作る場になっていた」とおっしゃっていました。また「M a t t oという町があったと過去形で語られているのと同様に、将来 障害者という言葉があった。と過去形で語られる、つまり困っていることについて平等に福祉を受け入れられる社会は、来るのでしょうか」という問いかけがとても印象に残っています。

原田マハの小説「生きるぼくら」（徳間文庫）のなかで、認知症のおばあちゃんの事が心配のあまり家に閉じ込めてしまっていたお孫さんに、地域の世話好きのおばさんが「認知症になっても『自我』というものがある。（中略）おばあちゃん自身の誇りみたいなもんを取り上げちゃっているようなもんだよ。」という下りがあります。

もし子どもが、障害があったり、病気だったりする場合も同じだと思うのです。どの子どもも誇り高い自我があるのです。子どもは、みんなの宝物、どの子どもも立派に誇り高く生きてほしい。

そのことを思うと、子どもの困り感によって法律がわけられている現状のメリットは、それぞれの子どもたちを専門的に深めてケアできることです。デメリットは、困り感によって専門家や事業が作られているので、他の制度の下にいる子どもの姿が見えにくくなっていることです。

しかし 子どもの困り感は、実は地域ではいろんなところで重なっているわけです。貧困の問題、家族の問題、障害、不登校、非行など、地域の子どもの関るみんなで手をつながないと解決できないことが起こっています。

遠い将来、子どものことは実際的にも日本の大切な子どもとして同じ法律で守られ、困り感のある子どもの支援の専門性も支援力も磨かれ、問題が解決できていく社会になることを願っています。

そして現実的には、制度の壁を越えて、それぞれの立場で子どもを守る支援者たちや学識経験者がみんなが集まって、お互いが抱える子どもの困り感や現状を知り、地域の中で『すべての子どもは社会の宝物』という理念の具現化のために一歩踏み出し、手をつないで日本の子どもを守っていこうと日本財団の理解を得て、この研究会は始まりました。

平成 29 年 3 月

日本の子どもの未来を考える研究会 副座長  
社会福祉法人麦の子会 総合施設長

北川 聡子

ごあいさつ 一本研究会の背景と目指すことー 北川 聡子	1
委員一覧	4
第1章 今年度の研究成果	
I. 制度文献研究まとめ	
「共生社会創出のための子ども家庭福祉サービスの供給体制 ー子ども家庭福祉における地域包括的・継続的支援をめざしてー」	7
(資料)「子どもの育ちを支える新たなプラットフォーム」 ～みんなで取り組む地域の基盤づくり～ (概要)	33
(資料) 地域包括ケアシステムの構築について (高齢者の地域包括ケアに学ぶ)	37
II. 子育て・子育て援助論	40
III. 「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」および 「市区町村の支援業務の在り方に関する検討WG」への意見書提出 『これからの子ども家庭福祉実施体制・市区町村における支援体制についての意見』	43
第2章 第一回シンポジウム報告	
I. シンポジウム開催報告	49
II. シンポジウム概要	
1. 研究会の発足	50
2. 基調講演より	57
3. 子ども家庭福祉の現場からの報告	
① 「子ども・子育て支援」より	67
② 「社会的養護」より	71
③ 「障害児関係」より	73
④ 「里親」より	78
(資料) シンポジウム資料	83
III. 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 内閣官房内閣審議官 山本麻里様 ご発言	111
IV. 厚生労働省障害福祉課障がい児・発達障がい者支援室長 高鹿秀明様 ご発言	114

第3章 地方自治体への質問調査	
I. 研究報告書（調査結果部分）	117
II. 資料	
1. 調査票	
「地域包括的・継続的支援の実現のための子ども家庭福祉行政のあり方に関する調査」	127
2. 簡易集計表（一般市版）	138
3. 簡易集計表（政令市または児童相談所設置市版）	148
第4章 子どもの相談から包括的な支援における事例	157
終わりに	169

## 委員一覧

---

- [ 座 長 ] 柏 女 靈 峰 (淑徳大学 教授)
- [ 副 座 長 ] 北 川 聡 子 (社会福祉法人麦の子会 総合施設長)
- [ 子ども子育て ] 古 渡 一 秀 (全国認定こども園協会 副代表理事)  
村 松 幹 子 (全国保育士会 副会長)
- [ 医 療 ] 米 山 明 (心身障害児総合医療療育センター 外来療育部長)
- [ 社会的養護 ] 長 谷 川 寛 治 (日本ファミリーホーム協議会 副会長)  
藤 野 興 一 (鳥取こども学園:全国児童養護施設協議会 会長)  
片 桐 弥 生 (山形学園:全国児童養護施設協議会)
- [ 障害児支援 ] 光 真 坊 浩 史 (江東区こども発達センター 園長)  
岡 崎 俊 彦 (奥中山学園 園長)  
湯 浅 民 子 (ひまわり学園 園長)
- [ 里 親 支 援 ] 渡 辺 守 (NPO法人キアセット)
- [ マスコミ関係 ] 新 井 直 之 (NHK大阪 ディレクター)
- [ 学 識 経 験 者 ] 大 塚 晃 (上智大学 教授)  
佐 藤 ま ゆ み (和洋女子大学 准教授)  
新 保 幸 男 (神奈川県立保健福祉大学 教授)
- [ オブザーバー ] 藤 井 康 弘 (前 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長)  
大 西 延 秀 (前 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室室長補佐)  
加 藤 正 仁 (CDS JAPAN 会長)  
青 木 建 (国立武蔵野学院 院長)
- [ アドバイザー ] 田 中 哲 (東京都立小児総合医療センター 副院長)